

株式会社リクルート・一般社団法人 全国高等学校PTA連合会合同調査  
第11回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2023

## 高校生が考える将来必要とされる能力TOPは「主体性」 保護者も高校生の自主性を重んじる傾向が強く、 自己の在り方や生き方を考える『探究学習』の重要性が高まる

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）と一般社団法人 全国高等学校PTA連合会（所在地：東京都千代田区 会長：山田 博章）は、高校2年生とその保護者に対し、進路に関する考え方やコミュニケーションの実態を探る調査を実施致しましたので、その結果をご報告致します。

※本調査は『リクルート進学総研』と「一般社団法人 全国高等学校PTA連合会」が2003年より隔年で実施しており、今回で第11回目を迎えます。報告書は、下記URLよりご覧いただけます。

（<https://souken.shingakunet.com/research/cat-2/>）

### 調査トピックス

#### 高校生と保護者のコミュニケーション：P3～5

- 進路についての会話は、高校生では83.0%、保護者では89.4%がお互いに対して「話す」と回答。内容は、「高校卒業後の具体的な進路について」（64.4%）が最多。「将来どんな職業に就きたいか」「将来の自分の夢」などが50%以上で続き、直近の進路に加え、就職や将来など長期的な展望について会話している。
- 高校生に進路選択に関する保護者の態度を尋ねたところ、「私の考えを尊重する」「あたたかく見守っている」「相談にのってくれる」が70%程度で上位。保護者が掛ける言葉としても「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」（65.9%）が突出して高く、高校生の自主性を重んじる傾向が強い。

#### 社会の技術革新に対する期待感：P6

- 将来の職業に対してAIなどの技術革新の普及・発達が与える影響については、高校生の61.2%、保護者の53.2%が期待していると回答。期待する理由は、技術革新により人間のできるものの可能性が広がること・効率アップによる生産性向上が望めることなど。高校生に比べて期待する割合が低い保護者では、技術革新による“進化”に、自分の子どもが適応できるかどうかを不安に思う意見もみられた。

#### 高校における教育改革に対する期待：P7～10

- 高校の教育改革への取り組みが行われている実感のある高校生は38.9%を占め、具体的な取り組み内容のトップは「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に取り組む探究学習が重視される」（61.5%）。
- ICT教育については、高校生の84.2%が高校が組織的な活用をしていると回答。活用の利点は、「探究活動など、自身の興味ある学びを深めることができた」「共同作業やディスカッションがしやすくなった」も大幅に上昇。高校におけるICTの活用の広がりが、『探究学習』を支えている様子が見て取れる。



リクルート  
『キャリアガイダンス』  
編集長 赤土 豪一  
(しゃくどごういち)

今回の調査結果では、「学校におけるICTの活用」について、「学校全体で活用を推進している」の回答が、前回調査から約20ポイントアップの54.3%となりました。ここ数年で、高校生の机に一人一台の端末が置かれ、授業活用される光景が一気に当たり前となったように感じます。今後、個別最適な学びに向けて、各現場での活用方法がますます深まっていくことが期待されます。また、前回調査に続き、保護者が「子どもと進路の話をするときに使う言葉」に関する問いでは「自分の好きなこと、やりたいことをやりなさい」の回答が多く、高校生の自主性を重んじる傾向があります。一方、高校生からは「やりたいことの見つけ方がわからない」という声をよく耳にします。だからこそ「探究学習」において、自分の在り方や生き方を考えながら、課題を発見し解決していく学びが、今後さらに大切になると感じます。

※出版・印刷物、WEBサイトなどヘッダを転載する際には、“「高校生と保護者の進路に関する意識調査2023」リクルート『キャリアガイダンス』調べ”と明記ください。

本件に関する  
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

『リクルート進学総研』WEBサイト <http://souken.shingakunet.com/>

## 調査概要

■調査目的：高校生の保護者とその子どもにおけるコミュニケーションの実態と進路観の現状を把握する

■調査主管：株式会社リクルート、一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

■調査対象：高校2年生とその保護者、一般社団法人 全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県、各3校ずつ計27校の公立高校

※各校：2年生2クラスの生徒とその保護者

2023年	北海道 秋田 群馬 東京 福井 静岡 奈良 徳島 宮崎	計27校
2021年	北海道 山形 茨城 東京 新潟 三重 和歌山 島根 沖縄	計26校
2019年	北海道 青森 山梨 東京 石川 愛知 和歌山 鳥取 熊本	計27校

※調査実施校所在地は毎年変わるため、時系列データは参考。2021年は北海道エリアのみ2校の回答

■調査期間：2023年9月15日(金)～10月13日(金)

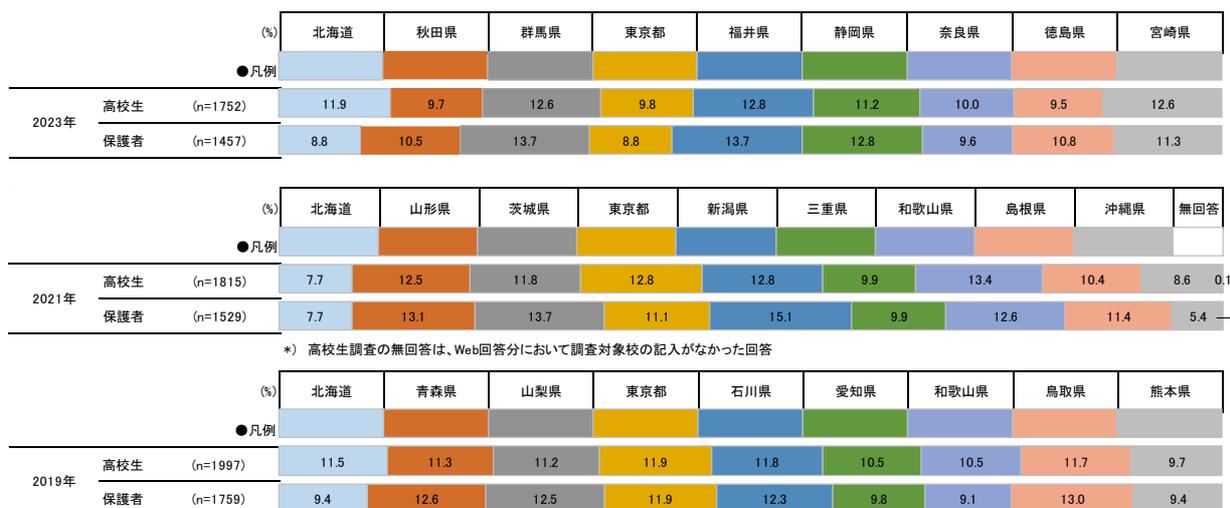
■調査方法：学校を通じた質問紙による自記式調査／またはWEB画面からの回答

- (1) 高校生 ホームルームにてアンケートを配布
- (2) 保護者 高校生から保護者へアンケートを手渡し
- (3) 紙調査票に回答、または記載のURLなどからWEB調査画面にアクセスして回答
- (4) 紙調査票またはWEBへの回答完了証を学級担任が取りまとめ、学校責任者が返送

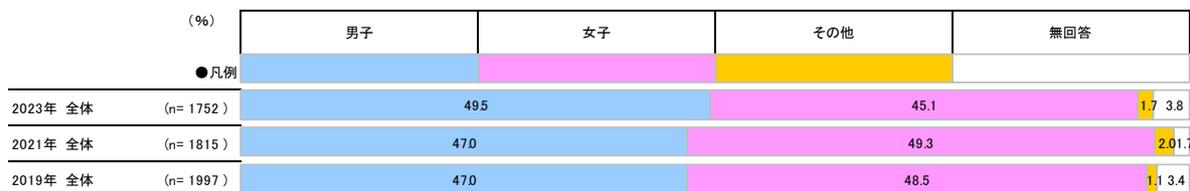
■有効回収数：(1) 高校生 1,752名 (2) 保護者 1,457名

## 回答者プロフィール

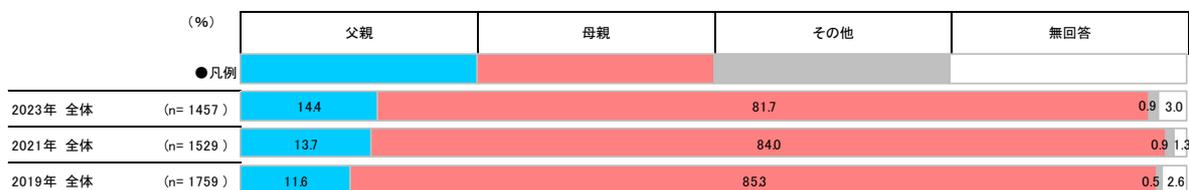
### 【高校生・保護者】時系列 調査対象校所在都道府県（全体）



### 【高校生】時系列 性別（全体／単一回答）



### 【保護者】時系列 続柄（全体／単一回答）



■高校生に、進路について話を保護者としているかを尋ねたところ、「よく話をする」が22.8%を占め、「ときどき話をする」まで含めると83.0%が話すと回答し、2005年以降の調査で最高値となった。同様に保護者にも尋ねたところ、合計で89.4%が該当。お互いに8~9割が、「進路について話す」関係であると認識している。

■高校生が保護者に話す内容としては、「高校卒業後の具体的な進路（学校、学部・学科、就職先）について」（64.4%）が最も多い。以下「将来どんな職業に就きたいか」「将来の自分の夢」などが50%以上で続き、直近の進路だけでなく、就職や将来など、長期的な展望について多岐に渡って会話していることがわかる。

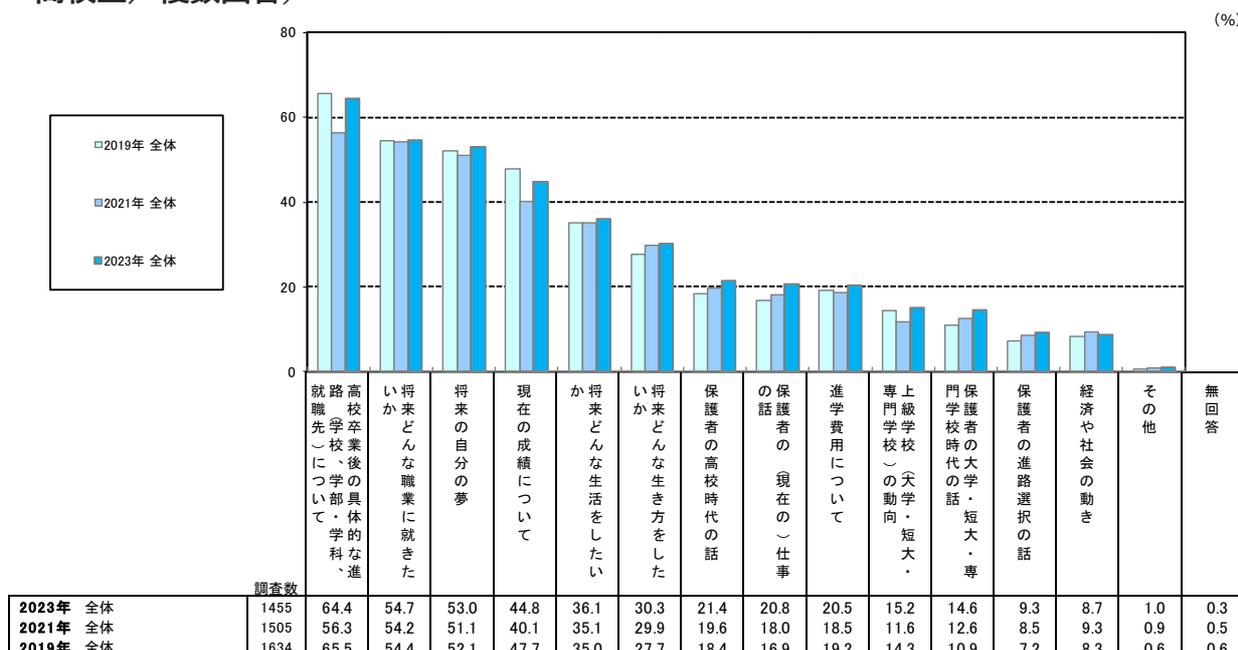
■【高校生】進路について話を保護者としているか（全体／単一回答）

	n	話す・計		話さない・計		無回答	話す・計 (%)	話さない・計 (%)
		よく話をする	ときどき話をする	あまり話さない	まったく話さない			
●凡例								
2023年 全体	(n= 1752)	22.8	60.2	14.3	2.0	0.6	83.0	16.3
2021年 全体	(n= 1815)	22.8	60.2	14.2	2.2	0.7	82.9	16.4
2019年 全体	(n= 1997)	22.0	59.8	16.0	1.7	0.5	81.8	17.7

■【保護者】進路について話を子どもとしているか（全体／単一回答）

	n	話す・計		話さない・計		無回答	話す・計 (%)	話さない・計 (%)
		よく話をする	ときどき話をする	あまり話さない	まったく話さない			
●凡例								
2023年 全体	(n= 1457)	23.9	65.5	9.4	1.0	0.2	89.4	10.4
2021年 全体	(n= 1529)	26.5	62.1	10.2	1.1	0.1	88.6	11.3
2019年 全体	(n= 1759)	26.4	62.6	9.5	1.3	0.2	89.0	10.7

■【高校生】進路について保護者とどんな話をしているか（よく話をする・時々話をする 高校生／複数回答）



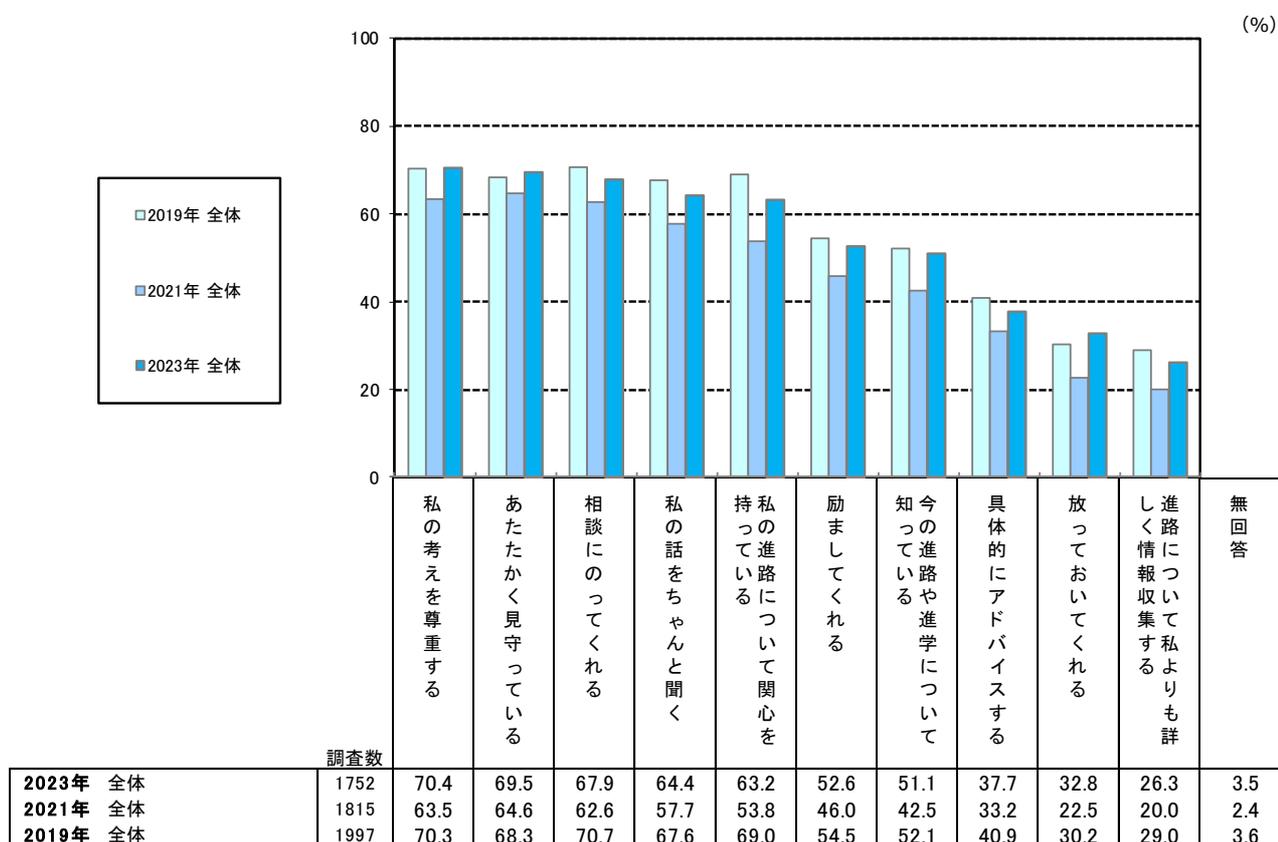
※今回調査の「全体」の降順ソート

## 進路選択に関する保護者の関わり方

■高校生に対して、進路選択に関する保護者にあてはまる態度を尋ねたところ、「私の考えを尊重する」（70.4%）、「あたたかく見守っている」（69.5%）、「相談にのってくれる」（67.9%）が70%程度で上位となった。

■時系列では、コロナ禍であった2021年よりいずれの項目もスコアが上昇しており、2019年の水準に戻ったものが多い。また、「私の考えを尊重する」は2009年以降の調査で最高値となっており、高校生から見て、保護者は自分の考えを尊重してくれる存在として認識が高まっている。

### ■【高校生】進路選択で保護者にあてはまること（全体／複数回答）



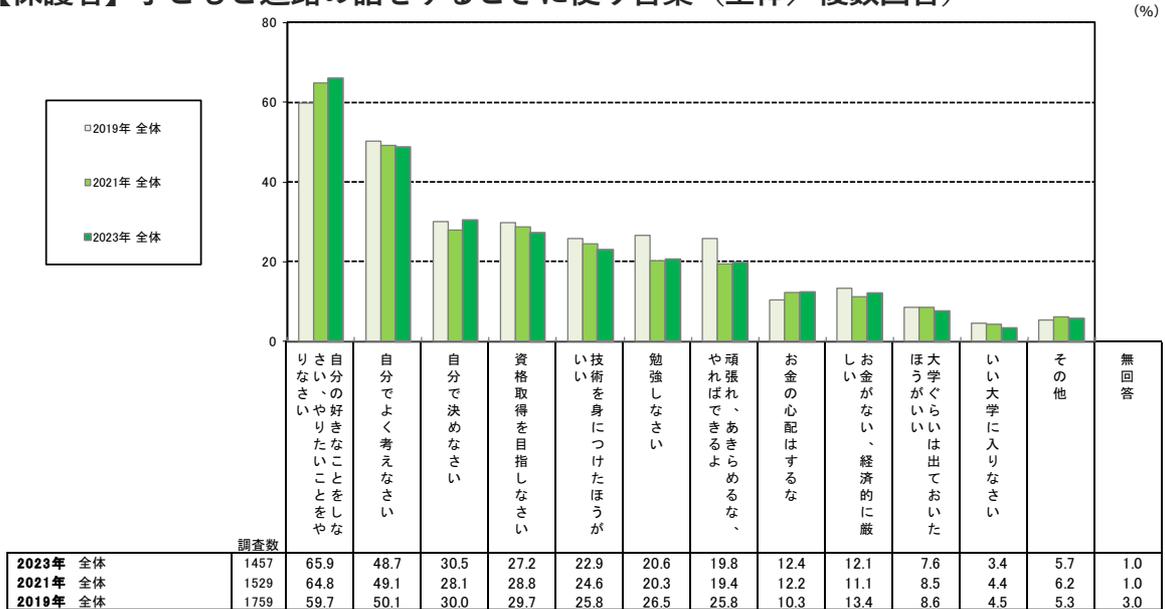
※今回調査の「全体」の降順ソート

## 保護者がコミュニケーション時に使う言葉と、高校生から見た保護者の行動

■保護者が子どもと進路の話をするときに使う言葉としては、「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」（65.9%）が突出して高く、時系列でも上昇傾向。一方、「資格取得を目指しなさい」「技術を身につけたほうがいい」など具体的な方向性を示したり、「勉強しなさい」「頑張れ、あきらめな、やればできるよ」などの声掛けをすることは減少している。

■また、高校生に保護者とのコミュニケーションについて尋ねたところ、「『あなたはほしい』『あなたはと思う』とあなたの意見が尊重されている」（73.6%）が最も高く、“保護者から自分の意見を尊重されている”ことを実感している高校生が多いことがわかる。

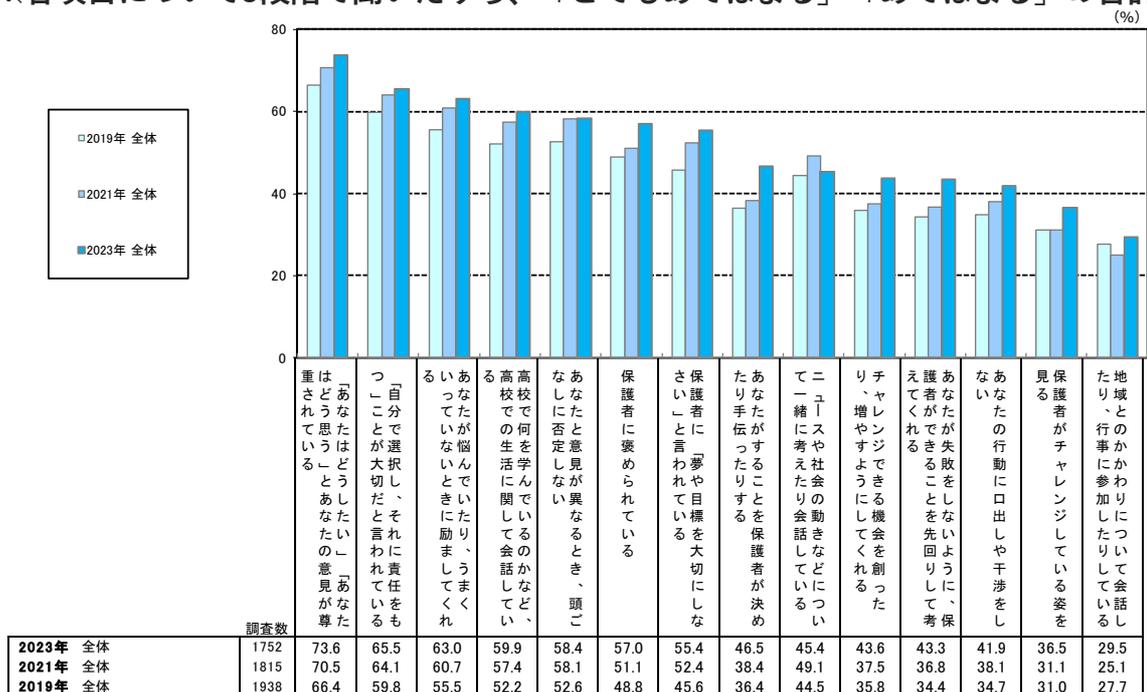
### ■【保護者】子どもと進路の話をするときに使う言葉（全体／複数回答）



※今回調査の「全体」の降順ソート

### ■【高校生】保護者との日常のコミュニケーションや行動（全体／各単一回答）

※各項目について5段階で聞いたうち、「とてもあてはまる」「あてはまる」の合計



※今回調査の「全体」の降順ソート ※各項目について「とてもあてはまる」「あてはまる」「どちらともいえない」「あてはまらない」「まったくあてはまらない」の5段階で回答を求めた

■将来の職業に対して、AIの発達などの技術革新の普及・発達が与える影響についての心境を尋ねたところ、高校生では合計61.2%、保護者では合計53.2%が期待していると回答した。

■期待する理由としては、高校生では技術革新によって人間の“できること”が増える可能性や、効率性がアップすることに期待する意見が多い。また保護者は、子どもの世代はそういった進化に対して十分に適応できると考えていることが期待の理由となっている。

■逆に不安な理由としては、AIによって人間の職業の選択範囲が狭まることを懸念する意見がみられる。

■【高校生・保護者】AIの発達など技術革新に対する期待感（全体／単一回答）

	期待・計		不安・計		無回答	期待・計	不安・計
	期待している	どちらかという期待している	どちらかという不安に思っている	不安に思っている			
<高校生>	●凡例						
2023年 全体 (n= 1752)	24.7	36.6	30.5	5.6	2.7	61.2	36.1
<保護者>	●凡例						
2023年 全体 (n= 1457)	13.8	39.4	38.8	2.6	5.4	53.2	41.5

【高校生】期待と不安（フリーコメント） ※回答の原文ママ

- 期待 「新たにできることが増えて、その進化にワクワクしているから」  
「今よりも暮らしやすい世界になれば良いと思うのもあるが、どこまで人間の夢を実現できるかを見てみたい気がする」  
「より効率的でゆとりのある世界になると思うから」
- 不安 「AIは今現在人の職業を奪っており、またAIが人間を超えたときどうなるか怖いのでこれ以上AIは発達しないしてほしい」  
「得体が知れず、今後社会がAIに支配されてしまうのではないかと不安」

【保護者】期待と不安（フリーコメント） ※回答の原文ママ

- 期待 「一般的に、子どもは大人に比べて、抵抗なく、進歩し続ける技術を取り入れる力があると思うから」  
「息子の就く職業からの収入は現在よりも減少することも大いに考え得るが、そもそも、AIの発達により、生活に必要とされる金額が大幅に減少すると考える」
- 不安 「AIに仕事をうばわれているので、もっと選択肢が減ると思う」  
「発展については素晴らしいと思うが人としての対応、考えを出していく機会が減っていくのではと思う」  
「社会の変化に対応できるように本人が能力を付けていけるのか心配」



リクルート『キャリアガイダンス』編集長 赤土 豪一（しゃくど ごういち）

調査結果からは、テクノロジーの進化に対する期待と不安両面の声が見受けられました。例えばAIにおいては、活用することで生産性向上につながる場面が増え、職種によっては人が担う仕事に変化が生まれると言われてしています。機会にもなる一方で、脅威にもなり得る存在。だからこそ創造力・コミュニケーション力など人ならではの価値を問われる機会がますます増えると考え、教育の現場においては、既存の学力に加え、非認知能力の育成がより重要視されるようになっていくと捉えています。

## 高校における「教育改革」への対応状況と取り組み内容

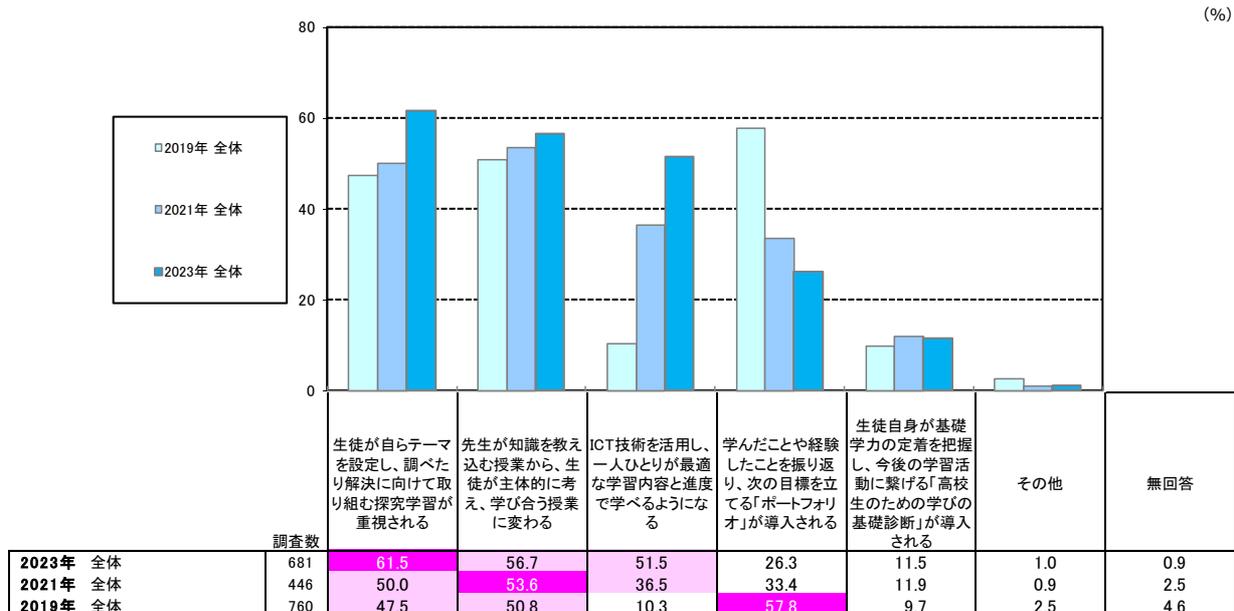
■通っている高校が、教育改革への対応を行っていると感じている高校生は全体の38.9%を占める。

■具体的な対応の内容としては「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」（61.5%）、「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」（56.7%）、「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」（51.5%）が上位となっている。これらの項目は時系列でもいずれも上昇。“主体的な、個別最適化された学習”へと改革が進んでいる実感があることがわかる。

### ■【高校生】 通っている高校は教育改革への対応を行っていると感じているか (全体/単一回答)

		感じている	まだ感じていない	わからない	無回答
●凡例					
2023年 全体	(n= 1752)	38.9	27.4	30.9	2.9
2021年 全体	(n= 1815)	24.6	41.5	33.3	0.6
2019年 全体	(n= 1997)	38.1	25.9	33.4	2.7

### ■【高校生】 通っている高校での教育改革への取り組み内容 (対応を行っていると感じている者/複数回答)



※「2023年全体」降順ソート ※ 100.0 各年で最も高い  
100.0 各年で2~3番目に高い

## 将来必要とされる能力と現在持っていると思う能力

■高校生が“将来必要とされる”と思う能力としては「主体性」（51.5%）がトップである一方、「主体性」を“現在持っている”と考える高校生は25.2%と、ギャップが大きい。同様に、“将来必要とされる”と思う能力で第2位の「実行力」（37.2%）についても、“現在持っている”と考える高校生は12.0%となっている。

■教育改革の“主体的な学習”の促進によって、今後これらのギャップが解消されることが望まれている。

### ■【高校生】 将来必要とされる能力と現在持っていると思う能力（全体／それぞれ3つまでの複数回答）

(n=1,752)			①将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力	②現在持っていると思う能力	①必要とされる能力ー②現在持っている能力のギャップ
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	51.5 1位	25.2 5位	26.3
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	37.2 2位	12.0 9位	25.2
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	14.7 10位	13.1 8位	1.6
考え抜く力 (シンキング)	創造力	新しい価値を生み出す力	30.1 3位	11.4 10位	18.7
	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	27.5 5位	14.6 7位	12.9
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	19.3 7位	8.3 12位	11.0
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	27.7 4位	9.5 11位	18.2
	柔軟性	意見や立場の違いを理解する力	19.7 6位	29.1 3位	-9.4
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	16.7 8位	34.0 2位	-17.3
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	15.1 9位	25.9 4位	-10.8
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	12.8 11位	15.1 6位	-2.3
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	10.7 12位	43.9 1位	-33.2
ひとつもあてはまるものはない			0.1	5.5	
無回答			2.9	3.7	

※カテゴリーごとに「2023年全体」降順ソート

※ 100.0 ①②それぞれで最も高い項目  
100.0 ①②それぞれで2~5番目に高い項目

■子どもの通う高校の『探究学習』への取り組みを「感じている」保護者は、全体の31.2%を占める。

■一方、高校生に対して、『総合的な探究の時間』を通じて自分の在り方や生き方・興味関心への理解が深まったかを尋ねたところ、深まったと「感じている」高校生は25.9%と、現状では4人に1人が効果を実感している。

■深まったと思う具体的な内容については、探究学習を通じて知識が深化・定着することや、自分自身の得意分野の発見などの自己理解の促進、環境問題に対して自分がどう関与できるのかといった社会問題への理解の深まりなどが挙げられている。

■【保護者】子どもが通う学校は「探究学習」に取り組んでいると感じるか（全体／単一回答）



■【高校生】「総合的な探究の時間」を通じて自分の在り方や生き方、興味関心への理解が深まったか（全体／単一回答）



【高校生】探究学習を通じて自己への理解が深まった課題（フリーコメント）

※回答の原文ママ

自己理解・自己探究

「実験の計画作りの段階における時間管理の仕方など」

「将来の夢に対応した課題を発見すること」

「外部の人との交流の中で、一人ひとりの考えや生き方を聞くことで選択の幅が広がった」

社会問題への理解の深まり

「SDGsで水の問題について考えたとき、自分には何ができるのかや、世界の深刻な状況を知ることができた」

「観光でどのような問題があるかを調べて、グローバル化について理解が深まった」

「カモシカを調べることで、自然環境を知れた」

## 高校における「ICT教育」への取り組み状況・良かった点

■高校におけるICT教育について尋ねたところ、高校生では、「学校全体で組織的に活用を推進している」（54.3%）が過半数を占め、「学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している」（29.9%）まで含めると、全体の84.2%が『組織的に活用』していると回答した。

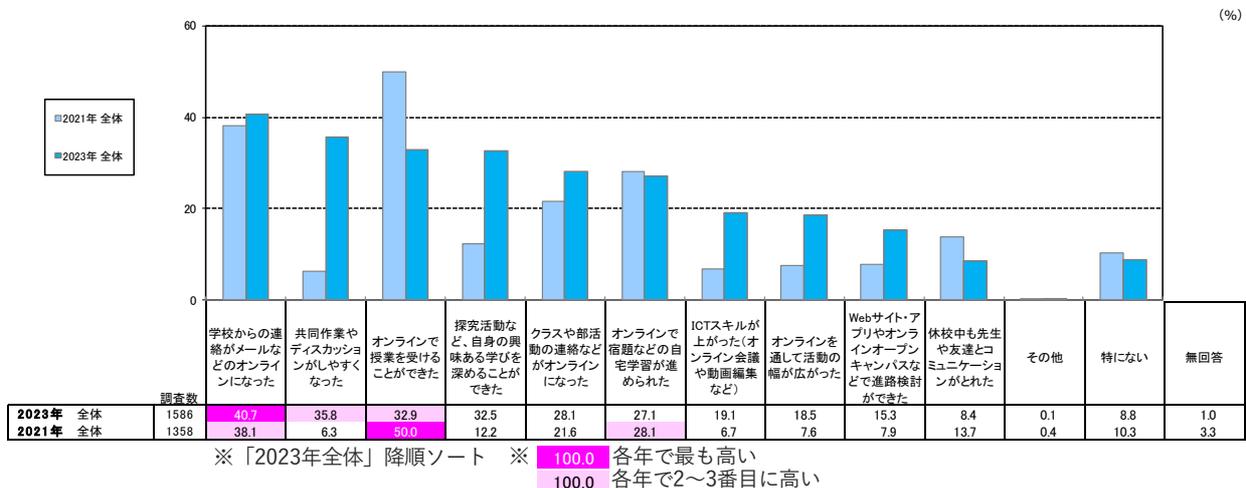
2021年と比較すると、「学校全体で組織的に活用を推進している」が20ポイント以上増加し、この2年間で活用が大幅に進んだことがわかる。

■ICT活用で良かった点について、高校生では「学校からの連絡がメールなどのオンラインになった」（40.7%）がトップ。時系列で見ると、「共同作業やディスカッションがしやすくなった」「探究活動など、自身の興味ある学びを深めることができた」が大幅に上昇し、オンライン授業や連絡などでの利用だけでなく、一歩進んだ活用が広がったことがわかる。

### ■【高校生】高校におけるICT教育の活用状況（全体／単一回答）

	活用・計	組織的に活用・計		教員個人で活用している	使い始めている (活用はまだこれから)	無回答	組織的に活用・計	活用・計
		学校全体で組織的に活用を推進している	学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している					
●凡例								
2023年 全体 (n= 1752)	54.3			29.9	6.3	5.9	3.6	90.5
2021年 全体 (n= 1815)	33.6			26.2	15.1	23.4	1.8	74.8

### ■【高校生】高校でのICTの活用について良かった点（学校でICTを活用している者／複数回答）



## リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>